

照来層群は西南日本山陰地域に分布する中新・鮮新世の火成岩類の一部であり、その岩石学的研究は例えば古山・相川(1983)らにより進められてきた。しかしながらその形成年代についてはこれまで詳細な研究が行われておらず正確には知られていない。本研究の目的は、照来層群の活動時期をK-Ar法とFT法を用いて明らかにすると共に、同一試料についての繰り返し測定と方法間比較によって鮮新・更新統の年代測定における信頼度を吟味することにある。

今回試料採取を行ったのは、照来層群中の上位より安山岩2サイト、流紋岩質凝灰岩1サイト、流紋岩3サイトの計6サイトである。これらの下位には中生代花崗岩、流紋岩類及び新第三紀北但層群等が不整合に分布している。年代測定は現在進行中であるが予察的結果は次の通りである。

- ①安山岩： K-Ar全岩年代 ~2.6Ma(1)
- ②凝灰岩： K-Ar黒雲母年代 ~2.3Ma(1)
 FTジルコン年代 ~2.6Ma(1)
- ③流紋岩： K-Ar黒雲母年代 ~2.5Ma(2)
 FTジルコン年代 ~2.7Ma(2) カッコ内は測定回数

これらの結果から照来層群は2~3Maに活動したことが明かとなった。また方法間比較は現時点では誤差の範囲でよい一致を示している。今後更に測定回数を増やして、標準試料としての可能性等もより詳しく検討していく予定である。